# 山鹿市中体研

理事長　東　　克彦

## １　はじめに

山鹿市は、松永会長（米野岳中学校長）を中心に、６校１６名の保健体育担当で研究を進めている。授業、生徒指導、校務、部活動など毎日多忙ではあるが、日頃の授業の質を高めるために、「学び合い」「学習意欲」「学習内容の明確化」をキーワードとして捉え、生徒たちが自主的に学習に取り組んでいくような姿を追求している。

山鹿市は少ない会員であるが、指導経験豊富な先生方の力を集結して、そのノウハウを共有化できるような取組が推進できればと考えているところである。

## ２　研究テーマ

（１）研究テーマ

『学び合いの中で学習意欲を高め、自主的に保健学習に取り組む生徒の育成』

～学習内容を明確にした指導法の工夫～

（２）本年度研究テーマの具現化に向けた努力点

①学習内容を明確にした授業実践の積み重ねを行い、指導力の向上
②指導と評価の一体化を図るための指導方法と評価の工夫の研究推進
③体力の向上（全国体力・運動能力、運動習慣等調査）を図り、仲間とかかわり合うチームワーク、連帯感等を味わうことができる授業展開の工夫
④県・各郡市と連携を図った研究の推進
⑤学習指導要領完全実施に伴う研修
⑥各種研究大会・実技研修への積極的参加体制の確立

## ３　研究組織

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| ○会　　長 | 松永　博文 | （米野岳） | ○副理事長 | 西浦　伸一 | （山　鹿） |
| ○理 事 長 | 東　　克彦 | （菊　鹿） | ○研究理事 | 那須　法寿 | （鹿　北） |

## ４　活動状況

（１）【５月８日（金）　山鹿市教育会研究会　半日研修（山鹿小学校）】

①前年度の反省　②役員選出　③市研究テーマ、サブテーマの検討　④年間計画作成

◎本年度も昨年度のテーマを引き継ぎ、実践を積んでいくことを決定した。また、昨年度各郡市に配付した、USB データの分析も行うことにした。

（２）【７月２７日（月）　山鹿市教育会夏季研修会　終日研修（菊鹿中学校）】

午前：器械運動の実技講習会（講師：山鹿市立菊鹿中学校　東　克彦）

午後：・１学期の授業実践の情報交換会

・データーベースの分析と活用方法の検討

（３）【７月３０日（木）　県中体研夏期研修会参加・体育実技講習会参加（３名）】

（４）【１０月６日（火）　山鹿市教育会研究会　半日研修　（鶴城中学校）】

①公開授業

単　　元　　体育理論「運動やスポーツの効果と安全」

授 業 者　　徳永　重義　教諭（鶴城中学校）

②授業研究会

（５）【１１月１９日（木）～２０日（金）熊本県学校体育研究発表大会への参加（のべ９名参加）】

（６）【１月２２日（金）　山鹿市教育会研究会　半日研修　（米野岳中学校）】

①年間反省

②次年度に向けての検討

③山鹿市保健体育科のインフラ整備について

## ５　研究の概要

（１）公開授業（授業者：徳永　重義　教諭（鶴城中学校）　体育理論「運動やスポーツの効果と安全性」）

①本時のねらい

運動やスポーツの意義や効果などについて、出された意見や集めた情報を分析したり整理したりして、まとめることができるようにする。

②授業の様子

| 学習内容・活動 | 指導上の留意点 |
|---|---|
| １　前時の学習を振り返る<br>２　本時の課題を把握する | ○スポーツの映像を見せ、運動やスポーツの多様性、必要性、楽しさをおさえた。 |
| 運動やスポーツが心身に及ぼす効果を知り、私たちの生活と結びつけよう | |
| ３　運動やスポーツの心身に及ぼす効果を考える<br>４　考えた意見をグループで出し合い、分類する<br>５　全体でまとめる | ○運動やスポーツの効果を考えさせる際、経験をもとに考えさせた。<br>走り幅跳で目標記録を跳び、達成感を味わうことができた。<br>毎日のトレーニングにより、体力がついた。<br>大きく分けると、身体的な効果と心理的な効果の２つに分けられるな。<br> |
| ６　本時のまとめを行う | 運動やスポーツを行うことで、色々なメリットがあることが分かりました。生活に生かしたり、意識して運動をしたりしたいです。 |

③授業研究会より

・導入部分で、ラグビーワールドカップの日本代表の試合の様子が流され、興味関心をかき立てることができていた。

・運動やスポーツの及ぼす効果について考えていったが、身体面についての効果が多く出された。精神面についての意見が出るような手だてが必要であった。

・今後も会員全員が継続して、体育の授業、体育理論の授業、保健の授業を関連づけて実践していく必要がある。

（２）インフラ整備について

山鹿市には６校しかなく、その特性を生かすためにも、ある程度歩調を合わせて保健体育の授業を行っていく必要があると考える。そのためには、６校のインフラを少しずつ整備していくことが必要ではないかと考えた。まずは、集団行動等からそろえられるようにしていきたい。そうすることで、異動した先でも、スムーズに授業に臨めるはずである。各学校の取組を出し合い、インフラ整備を少しずつ始めているところである。

## ６　まとめ

本研究会の会員は１６名と少なく、またベテランの先生方も多い。そのノウハウを伝承していく必要がある。そのためにも、授業研究を継続して行いながらも少しずつインフラ整備を行い、山鹿市の財産が受け継がれるようにしていきたい。